

第 1 問

解答

問 1	1	②
問 2	2	④
問 3	3	②
問 4	4	③

解説

問 1

正解は②。

空欄アには「法の下での平等」が入る。日本国憲法第 14 条には、「すべて国民は、法の下に平等であつて、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」と、「法の下での平等」が明記されている。

空欄イには「男女雇用機会均等法」が入る。日本は、1985 年の女性差別撤廃条約（女子差別撤廃条約）の批准に向けて、国内の法律を整備するため、同年に男女雇用機会均等法を制定した。

問 2

正解（適当でないもの）は④。表 1 の右側によると、60 代男女の割合には 6.4 ポイントの差があり、他世代の男女差（20 代：9.4，30 代：10.3，40 代：7.2，50 代：7.3）よりも小さい。

①は正文。表 1 の左側によると、女性は年代が上がるほど割合が高くなっている（14.5%（20 代）→17.7%（30 代）→23.3%（40 代）→24.7%（50 代）→28.0%（60 代））。

②は正文。表 1 の左側によると、男性 20 代が 26.2%，女性 20 代が 14.5%と、男性 20 代のほうが 11.7 ポイント高い。

③は正文。表 1 の右側によると、男性 20 代（20.4%）・男性 30 代（20.7%）のみ 20.0%を超え、それ以外の性別・年代では 20.0%を下回っている。

問 3

正解は②。「各政党の候補者の男女比率を均等にする法を制定した年」にあたる 2000 年と、「その 10 年後」にあたる 2010 年を比較すると、Y 国の女性議員比率は 8.0 ポイント高くなっている。

①は誤文。X 国では、「各政党が候補者名簿の男女比率を均等にする努力を始めた時期」にあたる 1990 年よりも前の 1960 年代から、既に女性議員比率が上昇している。

③は誤文。1960 年・1970 年・2000 年には、Z 国の女性議員比率が Y 国を上回っている。

④は誤文。表 2 に示されたいずれの年でも、日本の女性議員比率は Z 国を上回っていない。

問 4

正解は③。

空欄アには「形式的」が入る。形式的平等とは、法律や制度などにおける取り扱いが平等であることを指す。

空欄イには「実質的」が入る。実質的平等とは、現実の格差を無くそうとする考え方である。クオータ制は、現実の格差に直面している人々を優遇することで、実質的平等を目指す制度である。

空欄ウには「アイヌ施策推進法（アイヌ民族支援法）」が入る。アイヌ民族の支援や文化振興のために 2019 年に制定された法律で，初めてアイヌ民族が「先住民族」であることを明記した。

第 2 問

解答

問 1	5	⑤
問 2	6	⑥
問 3	7	⑤
問 4	8	②

解説

問 1

正解は⑤。

空欄アには「ハーバーマス」が入る。『コミュニケーション的行為の理論』の著者はハーバーマス。

空欄イには「対話的理性」が入る。合意形成に向けて対等かつ自由に討議するための能力を指す。

空欄ウには「言葉を通して関わり合う」が入る。アーレントは『人間の条件』において、労働・仕事・活動を定義した。そこでの「活動」とは、言葉によって人同士が関わり合う営みを意味する。

問 2

正解は⑥。

アは誤文。2 つ目の下線部（「この二つの年齢層は～」）について、「40～49 歳」では、「インターネットやソーシャルメディアの利用」を挙げた割合は 2022 年で 45.6%と、半数を超えていない。

イは正文。「18～29 歳」について、表 1 の「ゆとりがない」の割合は 0.7 ポイント増、表 2 の「友人や恋人との交際」の割合は 9.1 ポイント増である。

ウは正文。表 2 では「社会参加」の 70 歳以上の割合は 2018 年が 10.7%、2022 年が 8.6%であり、両年とも 70 歳以上の割合が他の年齢層より高い。

問 3

正解は⑤。経験を通して得られる諸事実から、普遍的な法則を導く推論方法を帰納法という。

I は適当。「穏やかな態度で相手の発言を最後まで聞き、よく考えてから発言するように決めたとこ、対話が活発にできるようになった」という経験から、「活発な哲学対話は、安心して話せる取り決めがあれば可能になる」という法則を帰納的に導いている。

II は不適当。人間の義務という前提から、対話のルールを演繹的に推論している。

III は適当。素朴な質問が問いを深めた経験から、哲学対話の方針を帰納的に導いている。

問 4

正解は②。

㉑に対応するのはア。全員がインターネットを介して会議に参加しているため、「非対面的関わりのみタイプ」に合致する。

㉒に対応するのはウ。一部の人のみがインターネットを介して対面の対話集会とつながっているため、「対面的関わりに非対面的関わりが加わっているタイプ」に合致する。

㉓に対応するのはイ。料理教室に対面で講師・生徒が集まっているため、「対面的関わりのみタイプ」に合致する。

第 3 問

解答

問 1	9	④
問 2	10	②
問 3	11	③
問 4	12	①
問 5	13	②
問 6	14	④
問 7	15	③
問 8	16	②
問 9	17	⑥

解説

問 1

正解は④。

プラトンはアイデアを憧れ慕うことをエロースと呼んだ。エロースは初めさまざまな美しいものを求めるが、やがては美そのもの（美のアイデア）を求めるようになるとされる。

問 2

正解は②。

偶像崇拝が厳しく禁じられるイスラームのモスクには、神の像の代わりに聖地メッカの方角を示すミフラーブというくぼみがあり、その方角に祈りが捧げられる。また、ミフラーブには幾何学模様の装飾が見られることが多い。

問 3

正解は③。

アウグスティヌスはパウロに影響されるとともに、プロティノスが確立した新プラトン主義の哲学にも影響を受けた。また資料によれば、作られた美だけを追い求めることは、美の源泉である神そのものから私たちを遠ざからせる「畏」である。

問 4

正解は①。

アは孟子の考え方。孟子は性善説を唱え、人間の本性は善であるとした。

イは莊子の考え方。莊子は、ありのままの世界では万物が平等で等しい（万物斉同）と主張し、善悪、貴賤、美醜などは人間が作り出した相対的なものに過ぎないと論じた。

ウは孔子の考え方。孔子は親子・兄弟の間に自然と発生する「愛すること」としての仁を重視し、形式的で空虚な礼ではなく仁の実践としての礼に従うこと（克己復礼）を主張した。

エは墨子の考え方。墨子は孔子の仁礼の思想を家族に偏ったものとして批判し、わけへだてなくすべての人を愛する兼愛を主張した。

問 5

正解は②。

アは正文。大乘仏教では、一切のものは実体を持たない空であり、縁起の中でかりそめの存在を持つに過ぎないと論じられる。この思想はゴータマ・ブッダの「諸法無我」にも見出される。

ウは正文。無著（アサンガ）と世親（ヴァスバンドゥ）は、一切の事物は心が作り出した表象に過ぎないという唯識論を論じた。この思想は玄奘によって中国に伝えられた。

イは誤文。「出家した菩薩が送る生活を理想化して描いた」が誤り。『維摩経』は世俗の生活の中で仏教の真理を実現する様を描いた書物である。

エは誤文。すべての衆生が仏になる素質を備えていること（一切衆生悉有仏性）を説いたのは『般若経』ではなく『涅槃経』である。

以上より、正文はアとウなので、②が正解。

問 6

正解は④。

a にあてはまるのはガリレイ。『天文対話』はガリレイの著作。

b にあてはまるのは因果法則。近代の自然哲学者たちは自然に内在する因果法則（原因を結果に結びつける法則）を発見しようとした。

c にあてはまるのはヒューマニズム。ルネサンスの学問や芸術は神ではなく人間を中心とするあり方を探求した。

問 7

正解は③。

資料では、複製技術が「これまでの一回限りの作品に代わり、同一の作品を大量に出現させる」ことで作品の唯一無二性を無力化すると語られている。またそれは「現代の大衆運動とも密接に結びついている」と語られ、作品を大衆に広く開く効果があると主張されている。

問 8

正解は②。

資料 1 によれば、芸術の真理は「個人の生き方の変容」であり、「美的体験はそれ自身が一つの倫理」である。また資料 2 によれば、芸術作品に触れることで鑑賞者は製作者と「同じ感情を感受する」ことができるから、それは鑑賞者の変容をもたらすと言える。

問 9

正解は⑥。

a にあてはまるのはイ（逆説）。場面 2 で C は老子の思想を紹介している。そこで老子は、人々が美と思うものは実は醜悪なものであると述べており、美の逆説を主張していると言える。

b にあてはまるのはエ（美しさがなくとも）。場面 3 で A たちは「必ずしも普通の意味で「美しい」とは言えない」現代アートについて話し、C はそれについて「心が動かされた」と語っている。

下線部①に関連した記述として正しいものはキ。マルクスは人間の物質的な生産活動を下部構造と呼び、芸術を含む精神的な活動である上部構造は下部構造によって規定・制約されると主張した。

第 4 問

解答

問 1	18	①
問 2	19	②
問 3	20	③
問 4	21	④
問 5	22	⑤

解説

問 1

正解は①。

蕃神とは外来の神を指す語で、仏教が日本に伝来した当時、仏は利益をもたらす蕃神として受け入れられた。

問 2

正解は②。

親鸞は、すべての衆生を救おうとする阿弥陀仏の本願に帰依し、人間の努力によってではなく阿弥陀仏の本願によってこそ救いがもたらされると説いた。

問 3

正解は③。

富永仲基は、前代の思想に新しいものを付け加えることで後代の思想が展開されるという加上の説を唱え、仏教經典のすべてが釈迦の言葉とは限らないと主張した。

問 4

正解は④。

資料では、儒教と西洋哲学の「精髓」が「一致するところ」を採ること得られる「天地の真理」を「道徳の基礎」として「諸々の教えを採って集成」すること、その上で「諸教を道徳として採用」することが主張されている。

問 5

正解は⑤。

a にあてはまるのは丸山真男。丸山は当時の日本の思想について、さまざまな思想が雑居しているに過ぎないと批判した。

b にあてはまるのは夏目漱石。漱石は日本の文明開化について、それは内発的なものではなく、ただ上皮を滑っている外発的開化に過ぎないと批判した。

c にあてはまるのは内村鑑三。内村はキリスト教と共に武士道を重視し、武士道の精神を土台にキリスト教の真理や正義を実現する「武士道に接木されたるキリスト教」を主張した。

第 5 問

解答

問 1	23	③
問 2	24	②
問 3	25	④
問 4	26	③
問 5		
(1)	27	①または②
(2)	28	(1) が①の場合②, (1) が②の場合⑤

解説

問 1

正解は③。

アにあてはまるのは長期記憶。短期記憶とは情報を見聞きした後に一時的に保存される記憶で、長期記憶とはそれが長期間保存されたもの。資料で語られている実験では、参加者は言葉の意味をすでに知っているので、「言葉の意味についての情報」は長期記憶に保持されていると言える。

イにあてはまるのは符号化（記銘）。資料で語られている実験では、図形を提示する前に、その図形が何に似ているかという情報が伝えられることが、図形を覚える（符号化する）時点での記憶に影響を及ぼしている。

問 2

正解は②。

下線部㊸を説明する認知バイアスとして正しいのはア。F は、テレビでよく少年犯罪が報道されている（「頭に思い浮かびやすいものや思い出しやすいもの」になっている）ことから、少年犯罪が増えている（「より多くある」）と考えてしまった。

下線部㊹を説明する認知バイアスとして正しいのはエ。G は、同じクラスの人が遅刻するという「失敗」をしたとき、実際にはバスが渋滞に巻き込まれた（「周りの人や環境」に原因がある）のに、本人が文化祭の準備にやる気がないのが原因だ（「その人自身に原因がある」）と考えてしまった。

問 3

正解は④。

デューイは真理の探究のためだけではなく日常生活での問題解決の道具として知性を使う道具主義を唱えたが、その立場に立つとき、必ずしもヒューリスティック（問題をすばやく解決するための直感的な判断手順）という手法は排除されない。

問 4

正解は③。

担当医師が患者にどちらの薬剤を投与したかを知っていれば、新薬の効果を期待するバイアスのせいで、新薬を投与された患者に対して、効果が出ていないのに出ていると思うかもしれないおそれがある。

問 5

正解は①と②、あるいは②と⑤。

(1) で①を選んだ場合は②が正しい。①の方向性が目指すのは、個人が認知バイアスに影響されないための仕組みを作ることである。異常事態発生時には、国や地方自治体の公的情報の利用を容易にすることで、認知バイアスに影響されて誤った判断を下してしまうのを防止することができる。

(1) で②を選んだ場合は⑤が正しい。②の方向性が目指すのは、認知バイアスに影響された個人が誤った判断を行わないようにすることである。異常事態発生時に人が危険だと感じる警戒色や警告音を提示することで、認知バイアスに従って直感的に判断していても危険を避けることができると考えられる。

第 6 問

解答

問 1	29	①
問 2	30	③
問 3	31	⑦
問 4	32	③
問 5	33	①

解説

問 1

正解は①。

トルストイは『戦争と平和』を著したロシアの作家で、名門貴族の家に生まれたが、ヒューマニズムの観点から農民の側に立って戦い、晩年には地主としての特権を放棄した。

問 2

正解は③。

フーコーは、人間の思考が見えない権力構造によって暗に規定され、人々は気づかぬうちに権力に順応していると論じた。会話文で H の親戚のおじさんは、戦争について語ることが暗に拒否されるような社会の趨勢について語っており、フーコーの思想に合致する。

問 3

正解は⑦。

a にあてはまるのは人間。資料では、安全保障という概念が国家に限定して捉えられてきたことが批判的に語られ、「普通の人びとに対する正当な配慮」としての人間の安全保障が主張されている。

b にあてはまるのはコスモポリタニズム。会話文で J は他国の戦争や紛争について真剣に考えるべきだと主張している。それはすべての人間を等しい同胞とみなすコスモポリタニズムにあたる。

c にあてはまるのはストア派。ストア派は、人間がみな宇宙の秩序である理性を持つ以上、すべての人間は世界市民（コスモポリテース）として平等であると主張した。

問 4

正解は③。

下線部で語られている 3 つの特徴とは、㉞人間を「単なる数量として」捉えること、㉟人間を「組織的な目標のもとで」管理すること、㊱「その人自身への配慮」が欠如していることである。③で店長は従業員を「必要な人員数」という数量で捉え（㉞）、「営業体制を維持する」という目標のもと（㉟）、「本人の希望や健康を無視して」（㊱）長時間の労働を課しているので、これら 3 つの特徴がすべてあてはまる。

問 5

正解は①。

人々が自由に交流して互いの境遇に関心をもてる団体を作ること、資料で語られる、独裁体制による人々の「原子化」（孤立した個人の集合に変えられること）への抵抗となりうる。